季節や行事により興味、関心が持てるように…朝・帰りにそらさんと一緒に見ている絵本。午後のおやつまでの時間には朝・帰りよりも長い話の絵本を数日に分けて読み聞かせをしています。

くじらさんになっての長編絵本『おいしいのぼうけん』『ダンプえんちょうやっつけろ』『ザリガニのおうさま まっかちゃん』を読んでいくと「(ネズミばあさん)チョット怖イナア…デモ、ドキドキスル〜」「ダンプえんちょうツテ、強イナア」「クジラグミツテ私ラト一緒ヤン」「まっかちゃんツテ、何デ釣レルンヤロウ？」等、読み終えるたびにそれぞれの思いを話してくれるくじらさん。とある保育園での出来事を元にした内容でもあり、話に入りやすく、ワクワクドキドキしながらも自分と重ねてみたり、子どもたちなりに思いを持ちながら翌日の続きに大きな期待を持っている様子です。

赤ちゃんからの絵本の読み聞かせで育った言葉の力は“自らが読書する力”に引き継がれ、人間としてよりよく生きていく土台へとつながっていく事でしょう。スマホやゲームを手にしたたり、TVの前に居る事が多くなっているこの頃。お家でも“親子で絵本”いかがでしょうか？

くじらチーム 7月号